

「行動する建築家 坂 茂」(中2)の授業について

1 はじめに

表題の授業をするということで相談を受けました。「道徳の読み物資料では主人公の心情を読み取るのではなく、資料から道徳的価値について考える。」ということをもとに授業展開を考えました。1時間の授業で出す発問は次の通りとしました。

<読み物資料>

内容の理解を深める補助発問を2～3つ

資料から道徳的価値について考える発問を1つ

<生活の振り返り>

読み物資料を踏まえて生活の振り返りから道徳的価値を考える発問を1つ

生活の振り返りから道徳的価値を考えることが難しい場合は、自分に引き寄せて考える発問を1つ

2 授業展開

- (1) 教材名 行動する建築家 坂 茂 / (2) 主題名 社会のためにできること
(3) 内容項目 C-(12) 社会参画、公共の精神
(4) ねらい 社会参画の意識を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。

(1)～(4)は指導書より

(5) 授業展開

<導入>

質問 東日本大震災後の避難所では、どんな生活が送られていたと思いますか。

避難所の生活で苦勞すること、困ることはどんなことだと思いますか。

→ 避難所生活の写真を提示すると良い。

<資料からの発問>

発問1 資料のタイトルに「行動する建築家 坂 茂」とあります。建築家の坂さんはどんな行動をしたのですか。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

→ 建築家として、各地の被災地に行き、ボランティア活動を行った。

具体的には、

p107 ㉒～㉓

・東日本大震災後には、間仕切りシステムを作り、避難所に届けた。

p108 ㉔～p109 ㉕

・ルワンダ内戦時には、紙管とプラスチックシートで作るシェルターを開発し、ルワンダに届けた。

p109 ㉖～p109 ㉗

・世界各地の被災地を飛び回り、紙管を使って仮設住宅や教会、小学校校舎など「紙の建築物」を建てた。

・東日本大震災後、輸送用コンテナを互い違いに積んだ三階建ての仮設住宅の設計を手がけた。

発問2 p108 ㉘～㉙ 建築家としての評価が高まったにもかかわらず、坂さんの心が晴れなかったのはなぜだと思いますか。

→ ペアで交流する。全体で交流する。

→ p108 ㉚～㉛ 社会のために役立つことについて、自分としてはまだまだ不十分だと感じていた。

- 発問3** 坂さんは、どんな思いから被災地を飛び回り、ボランティアとして支援活動をしたのでしょうか。
- 班で解決する。各自が道徳ノートの「考えてみよう」に自分の言葉で書く。
 - 全体で交流する。
 - p101 ㉒ 「建築家は社会に対して何ができるか。」
 - p109 ㉒ 「建築家は社会に対して何ができるか。」
- ※同じ文章が2回も書かれている。社会に貢献したいという強い思い。

<自分に引き寄せて考える発問>

発問4 生徒に実態に応じて、次の中から発問を選ぶ。または、個人で選択する。

- (1) あなたはどんなことで社会に貢献しようと思っていますか。
- (2) あなたはどんなことでクラスに貢献しようと思っていますか。
- (3) 私たちは、どうして社会に貢献しなければならないのだと思いますか。

- 班で交流してから、道徳ノート“自分に+1”に書く。
- 全体で交流する。

※生徒にとって身近な社会は“クラス”である。

※社会貢献することが当然という前提で話や発問が進んでいる。そもそも「社会貢献って、なぜ、しなければならないのか」というところから考えさせる。

3 おわりに

「本当に全員が取り組んでいるか」というのが最近の私のテーマです。自分の考えを書くとき、課題(発問)の内容は理解できているが、何を書いているのかよく分からないという生徒がときどきいます。これを解決するために、班で交流してから書いたり、班で解決してから自分の言葉で書いたりしてはどうかと考えています。

ぜひ、実践していただき、成果と課題を共有したいものです。